

## 報 告

## 第 49 回日本理学療法学会大会に参加して

公益財団法人鉄道弘済会 義肢装具サポートセンター  
理学療法士 岩下 航大

## 1. はじめに

第 49 回日本理学療法学会大会が、5 月 30 日～6 月 1 日の 3 日間にわたり、神奈川県横浜市（パシフィコ横浜）にて開催され全国から 8,000 名を超える参加者（有料入場者）があった。

## 2. 公益社団法人 日本理学療法士協会について

日本理学療法学会大会が始まって半世紀を迎え 1966 年に 110 名で発足した理学療法士数は、平成 24 年には 10 万人に達している。職能団体である日本理学療法士協会への入会率は約 80%と高い組織率を誇り現在、日本理学療法士協会会員数は、アメリカの数を追い越し世界理学療法連盟加盟団体中 1 位である。また第 51 回大会からは日本理学療法士学会が再組織化され、12 の分科会（加えて 5 部門の補完領域）として開催される予定であり、2015 年開催の第 50 回日本理学療法学会大会は記念大会と位置づけられている。今回の第 49 回日本理学療法学会大会はこれまでの集大成となる学会大会をめざすとともに、第 50 回記念大会および分科会にバトンを渡す役目も担う大会であった。

## 3. 第 49 回日本理学療法学会大会について

本大会は、「あなたの生活を支えます～理学療法士 10 万人からの提言～」をテーマに掲げ、長澤弘大会長による基調講演「生活を支える理学療法とは何」、白澤卓二先生（順天堂大学大学院加齢制御医学講座教授）による特別講演「いつまでも若々しく生きるために」のほか、オープニングレクチャー（元ハードル選手・為末大氏）、シンポジウムや教育

講演、モーニングセミナー、ライフサポートセミナーが行われた。市民公開講座は、ノーベル・生理学・医学賞を受賞した山中伸弥先生が所長を務める京都大学 iPS 細胞研究所副所長の中畑龍俊先生に「iPS 細胞が変えるリハビリテーションの未来」など充実したプログラムが展開された。また、口述およびポスターでの発表・討議される演題は、応募演題総数 2,129 題から 1,625 題が採択され、これまでの研究成果の発表および討議が行われた。発表形式は「ポスター発表」991 題、「口述発表」515 題であった。また日本リハビリテーション工学協会・分科会（SIG）関連の題目とキーワード検索を行うと、義肢（義足）6 演題、装具 31 演題、車いす（車椅子）13 演題、移乗 4 演題、坐位保持 7 演題、住まい（在宅）17 演題、ロボット関連（ロボットスーツ HAL、HONDA アシスト）9 演題、計 87 題という結果であった。

## 4. おわりに

日本リハビリテーション工学関連の演題は全体の発表演題数から考えると決して多いとは言えない。一概には言えないが、この分野に問題意識をもつ理学療法士が少ないと推測される。しかし私自身理学療法分野での義肢に関する演題発表を継続してきて思うことは、熱意をもって日々臨床や研究に取り組んでいる方たちは確実に存在するという点である。年に一度の理学療法分野・義肢分野での義肢関連の発表を継続することで全国各地に散らばっている理学療法士、作業療法士、義肢装具士、医師、エンジニア、メーカー、研究教育機関の方々との出会い、日々の疑問や情報を共有できたことは大きな財産となっている。一定数の症例が存在するこの分野で、その灯を絶やさないうこと、人材を育てることは急務であり、連携をとり知識や技術を発信することは非常に重要である。日本リハビリテーション工学協会・分科会（SIG）はその役割を担う存在であると改めて感じる。

公益財団法人鉄道弘済会  
義肢装具サポートセンター  
〒116-0003 東京都荒川区南千住 4-3-3